

登録コード	A8Z44100	開講年度	2026				
授業科目	農林フィールド基礎実習					担当教員	荒瀬 輝夫
英文授業名	Basic Training for Field Science of Agriculture and Forestry						
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	他大学の学生，および信州大学他学部
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目	
備考							
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 0 2 5 Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】2. 【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。					農業・林業にかかわる自然環境やフィールドに関する広い知識・技術を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本実習では，上記の主要テーマに沿って，毎回，さまざまな場所で野外実習を行なう。自然観察だけではなく，演習林・農場や河川水域・緑地などでの実践的な内容も含まれる。毎回，野生植物に関することが多かれ少なかれ出てくるので，植物について興味をもっていることが望ましい。 土曜・日曜を2回（計4日間）という形で開講する予定である。 なお，野生動植物の環境アセスメント調査の職歴と学芸員資格をもつ教員が，実務経験も踏まえて指導します。						
(5)授業計画	1 日目： 1 農学部・伊那谷のフィールド概説，実習ガイダンス（教室） 2 森林と樹木の見方（構内演習林） 2 日目： 3 鳥類調査または昆虫調査（構内演習林） 4 農地・緑地と草本植物の見方（構内農場） 3 日目： 5 資源植物の採集と調査（西駒演習林） 6 地図読み演習（手良沢山演習林） 4 日目： 7 森林と農地のつながりを学ぶ(1)（箕輪ダム・萱野高原） 8 森林と農地のつながりを学ぶ(2)（箕輪町郷土博物館・東山山麓） なお，授業の振り返りとして，最終回の授業の最後に授業アンケートを実施する。 天候・現地の状況などの事情により，実習場所・順番・内容が変更になる場合があります。						
(6)自主学習の指針	より深い理解のために，他の授業で学んだこととの関連を自分なりに考えること。興味あることや分かりにくかったことについて，図書館やHPなどをフルに活用して調べることも有意義です。 また，実習場所の地図を毎回配布するので活用してください。						
(7)成績評価の基準	実習への取り組みとレポート作成において，1）実習の目的と内容を把握し，2）作業・調査等を積極的・適切に行うことが求められます。 1～2が十分に達成されており，必要に応じて質問したり，文献やHP等の情報を参照・引用して理解が深められていれば「卓越している」，1～3が充分達成されていれば「かなり上にある」，概ね達成されていれば「やや上にある」，基本的な項目が達成されていれば「水準に達している」とします。						
(8)事前事後学習の内容	実習予定（日付・実習場所・テーマ）は，初回ガイダンス時に概説します。 授業計画に記載されている実習場所やテーマについての事前学習と，配布資料や参考書・HPなどをもとにした事後学習を行うことが望まれます。						
(9)テストやレポートの予定	内容に応じて調査票や記録用紙を配布しますので，記入した用紙をもって実習の記録・レポートとします。						
(10)成績評価の方法	・毎回の受講状況・レポートで評価。（期末試験は行なわない。） ・評価基準は以下の通り。 秀：90点以上（授業の達成目標の水準からみて卓越している） 優：80～89点（授業の達成目標の水準よりかなり上にある） 良：70～79点（授業の達成目標の水準よりやや上にある） 可：60～69点（授業の達成目標の水準にある） 不可（D）：50～59点（授業の達成目標の水準よりやや下にある） 不可（E）：49点以下（授業の達成目標の水準よりかなり下にある） ・やむをえない事情で出席できないときは，配慮を検討するので，できるかぎり事前に申し出てください。 ・フィールドでは予期せぬ危険もつきものなので，実習に支障をきたす行為（遅刻や指示に従わないなど）等は慎むようにしてください。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	・授業時間内と授業後（教室にいる間）は，遠慮なく積極的に質問してください。 事前・事後にはメール上のやりとりも可能ですが，フィールドの内容が多いので，その場で直接確認するほうがよいでしょう。 E-mail: tearase(at)shinshu-u.ac.jp（主担：荒瀬）						

(12)履修上の注意	・野外ではどうしても教員の声が届きにくいので、前のほうで聞くこと。 ・聞き漏らしたことがあれば、教員ないし周囲の学生に質問して、その場で確認すること（自ら聞き、周囲の状況を見る努力をして下さい）。 ・自分の身は自分で守ること（実習にふさわしい靴と服装、帽子着用、雨具の準備、水分補給など：ガイダンス時に説明します）。野外での実習を中心とするので、服装・装備が不適切と判断された場合、実習への参加を認めないこともありえます。 ・内容に応じて、他の受講者と協力して情報共有しながら実習を行なう場合があります。
【教科書】	なし（毎回プリント配布）。 実習場所の地図については、毎回配布する予定。
【参考書】	図鑑類： 「葉でわかる樹木：625種の検索」「冬芽でわかる落葉樹：カラー図鑑」馬場多久男 信濃毎日新聞社 他に、ポケットサイズの図鑑類などを持参すると便利。（ただし、図書館で借りた図鑑類を実習時に持ち歩くのは厳禁です！） 森林生態関係： 「森林の生態」菊沢喜八郎 共立出版 「森林生態学」依田恭二 築地書館 調査法関係： 「森林立地調査法」森林立地調査法編集委員会編 博友社 「草地調査法ハンドブック」沼田真編 東京大学出版会 「河川水辺の国勢調査マニュアル（生物調査編）」建設省河川局河川環境課編 （財）リバーフロント整備センター